



德島縣警部赤星尋郁外三名  
任免ノ件

右謹テ奏ス

明治四十年七月五日

内閣總理大臣侯爵西園寺公望

内閣



七月五日

明治四十年七月三日

内閣書記官

内閣總理大臣 望

内閣書記官長 望

德島縣警部正六位赤星 尋郁

任德島縣阿波郡長

叙高等官八等

加納 盛吉

任内務技師

叙高等官七等

内閣

宮崎 義香

任群馬縣技師

叙高等官七等

德島縣阿波郡長 蓮池 康太郎

依願免本官

德島縣警部正六位赤星尋郁

任德島縣阿波郡長

叙高等官八等

右明治二十三年勅令第九號ニ依リ郡

區長試驗委負長、銓衡ヲ經謹テ奏

ス

明治四十年七月三日

内務大臣

原

敬



内務省

裏面白紙

郡第三五 彌

内務省

216

右者本人ノ履歴書ニ依リ  
徳島縣警部 赤星尋郎  
長相當ノ資格アル者ト認ム

明治四十年七月二日

郡區長試験委員長吉原三郎

Vertical lines for text entry in a table format.

加納盛吉

任内務技師

叙高等官七等

右文官任用令第四條ニ依リ文官高等試験委員、銓衡ヲ經謹テ奏ス

明治四十年七月三日

内務大臣原敬



内務省

裏面白紙

銓第之文の彌

土工梅蔵之関之由務技師 加納啓之

右本人ノ履歴書ニ依リ 銓衡候處

頭書相當ノ資格アル者ト認ム

明治甲午年八月一日

文官高等試験委員印

内務省

宮崎義香

任群馬縣技師

叙高等官七等

右文官任用令第四條ニ依リ文官高

等試験委員ノ銓衡ヲ經謹テ奏ス

明治四十年七月三日

内務大臣 原敬



内務省

裏面白紙

220

銓第久主丸彌

著業之國之廳有孫技師

宮崎義者

右本人、履歴書ニ依リ銓衡候處  
頭書相當ノ資格アル者ト認ム

明治四十年七月一日

文官高等試験委員印

文官高等試験委員印



德島縣阿波郡長 蓮池康太郎

依願免本官

右文官分限令第三條第一項第二號  
前段ニ依リ謹テ奏ス

明治四十年七月三日

内務大臣 原 敬



内務省

辞職願

康太郎義

数年前ヨリ別紙醫師診録書之通病氣  
ニ有之瘡差長ヲ加一ツ奉務罷在幸處  
此際病勢非常ニ相落リ執務難相整  
断然閑地ニ就キ静養スル外無之矣奈  
事情以洞察之上辞職御允許ヲ得幸  
様御執表天相成度醫師診録書相添  
此段奉願云也

明治四十年六月六日

徳島縣阿波郡長蓮池康太郎



外務大臣 原 敬 殿

診断書

徳島縣阿波郡市香村大字市場町寄留

蓮池康太郎

一 病名 慢性腎臓炎

一 発病原因 頻回ノ感冒及麻拉利無

一 既往症候 徐々ニ発病セシ故之時本病ノ存在ヲ知ラズ

一 顔面及下肢ニ眩暈ヲ起スニ由リテ始メテ遂ニ診ケレテ

ニ至レリト

一 現在症候 脈ヲ呼吸停滯ハ常態ニシテ唯浮腫ノ往來

スルト尿中ノ蛋白ト漸次體力衰脱ノ増進ニアリ

一 療法及薬名 剌戟性食物ヲ禁シ身体ノ運動ヲ

減シ精神ノ安静ヲ圖ルニアリ薬劑ハ却テ用

イザルサトスト云フ本病ノ療則チ守リ牛乳療法ヲ

以テトシ只浮腫甚シキ時利尿劑即チ酒石英又ハ

牛ウトニンヲ投劑ス

右ノ通診新 施治スル也

明治四十年六月五日

徳島縣阿波郡市香村大字市場町七十七番地寄留

大塚小源太



上奏書進達

別紙 赤星尋郁

任用 件

明治四十年七月三日

内務大臣 原 敬



内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

内務省

224

裏面白紙

内務大臣第四五〇號

別紙

加納

盛吉

任用

、件

上奏書

進達

明治四十年七月三日

内務大臣原

敬



内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

内務省

裏面白紙

内務大臣第四五一號

別紙 宮崎義香任用 件

上奏書進達  
明治四十年七月三日

内務大臣原

敬



内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

内務省

226

裏面白紙

内務大臣  
官印  
甲第四五二號

別紙 蓮池康太郎

免官

、件

上奏書進達

明治四十年七月三日

内務大臣 原

敬



内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

内務省

227

裏面白紙